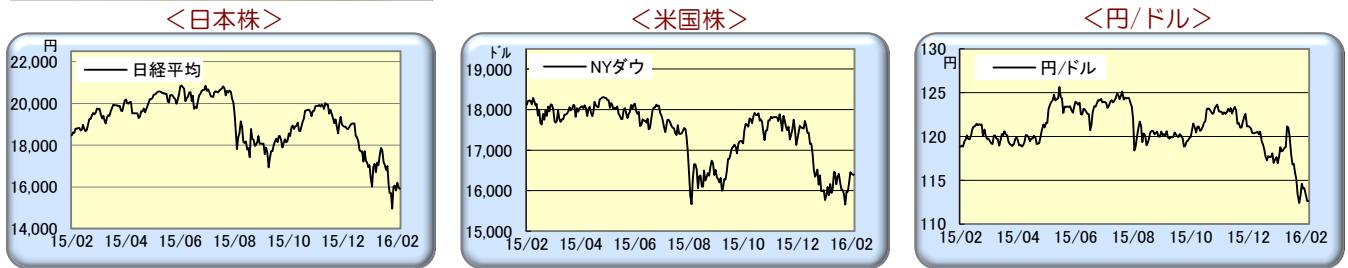


1. 日米株式と円/ドルの推移



(注)チャートは過去1年

	単位	2015/12/31	2016/1/29	2016/2/19	過去3年高値		過去3年安値	
		(前年末)	(前月末)	(前週末)	水準	日付	水準	日付
日経平均	円	19,033.71	17,518.30	15,967.17	20,952.71	2015/6/24	11,175.67	2013/2/22
NYダウ	ドル	17,425.03	16,466.30	16,391.99	18,351.36	2015/5/19	13,784.01	2013/2/25
円/ドル	円	120.22	121.14	112.63	125.86	2015/6/5	90.88	2013/2/25

過去3年高値・安値はザラ場ベース / 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

2. 日本株市場 先週の振り返り

～大幅反発し、日経平均は16,000円前後まで戻す～

先週の日本株市場は、週間ベースで日経平均が+1,014.56円(+6.79%)、TOPIXが+95.54ポイント(+7.99%)と大幅反発し、日経平均は16,000円前後まで戻しました。業種別(東証33業種)にみると、鉱業以外の全ての業種が上昇しました。

週明け15日の日本株市場は、①先々週末、欧米株市場がドイツ銀行の経営不安等の後退を受けて上昇したこと、②原油価格が大幅上昇したこと、③ドル円が113円台まで戻したことなどから、日経平均は1,000円以上急騰し、16,000円台を回復しました。その後週末にかけては、欧米株市場が堅調に推移するなど世界的なリスク回避姿勢が後退したものの、円高ドル安が進行したことなどを受けて、16,000円を挟んで揉み合う展開となりました。

3. 今週の主な予定

日程	曜日	国・地域	項目	前回
2月23日	Tue	米国	S&P/ケース・シラー住宅価格指数(前月比・季調済)	12月 0.94%
			消費者信頼感指数	2月 98.1
2月24日	Wed	米国	新築住宅販売件数	1月 544千件
2月25日	Thu	米国	耐久財受注(前月比)	1月 -5.0%
2月26日	Fri	日本	CPI(全国消費者物価指数)(除生鮮/前年比)	1月 0.1%
		国際	G20(20カ国・地域)財務相・中央銀行総裁会議(上海、27日まで)	

決算発表予定 他	日本	決算発表: 2/26 エイチ・アイ・エス
	米国	決算発表: 2/23 ホーム・デポ 2/24 ヒューレット・パッカード 2/25 ギャップ

※ 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

4. 日本株市場 今週の見通し

～週末のG20を控え、底堅い展開～

今週の日本株市場は、ドル円の動向には注意を要するものの、①先週末にかけて国内外の株式市場が反発に転じるなど、世界的なリスク回避の動きがようやく和らいできたこと、②今週末に開催されるG20において、主要各国が景気対策や金融市場の安定化に向けて動くことへの期待が高まりやすいこと、③GPIF(年金積立金管理運用独立行政法人)やゆうちょ銀行等による買付に対する期待が高まりやすいことなどから、底堅い展開を予想します。特に需給面では、年初来、現物と先物を合わせて2兆円以上売り越してきた海外投資家の売買動向をみると、2月以降も現物の売却は続いているものの、先物が買越しに転じた結果、現物と先物を合わせると2千億円程度の売越しに留まるなど、売越しのピークは過ぎた可能性があります。一方、今後の買い手として、株価下落により国内株式のウェイトが大きく低下したGPIFや国内株式のウェイトが2%弱に留まっているゆうちょ銀行への期待が高まっています。

その他の注目材料として、日本では26日のCPI、米国では23日の消費者信頼感指数や25日の耐久財受注などが挙げられます。